

工事関係者の死亡事故が発生！

新年度がはじまりましたが、工事関係者の死亡事故発生しました。詳しい原因については現在調査中ですが、概要を記載いたします。

【事故概要】

道路拡幅工事において、軽量盛土工の基礎型枠組立作業中、法面から、作業員が約5m下へ転落した。転落した際、腰につけていた工具(S字バール)が腰にささり、負傷した搬送先の病院で死亡が確認された。作業員は親綱に安全帯をつけていなかった。また、工具はカバーをしていなかった。



原因等はまだ調査中ですが、事故は現場における作業員への安全指示、作業員同士の安全確認により防ぐことが可能です。事故はいつ起こるかわかりません。油断のないよう、決められた手順をまもり、安全意識を高めて作業をおこなって下さい。

架空線に注意を！事故発生中！

平成26年度の重点項目でもある、架空線切断の事故は昨年度も多発し、今年度も、架空線を切断する事故がすでに2件発生しています。特に、作業中ではなく、現場内の重機移動中の事故が増えています。架空線切断事故を減少させるための架空線対策の事例を掲載いたしますので、活用して頂き、架空線切断の事故を減らすようにしてください。

上限を設ける



視認性を高める



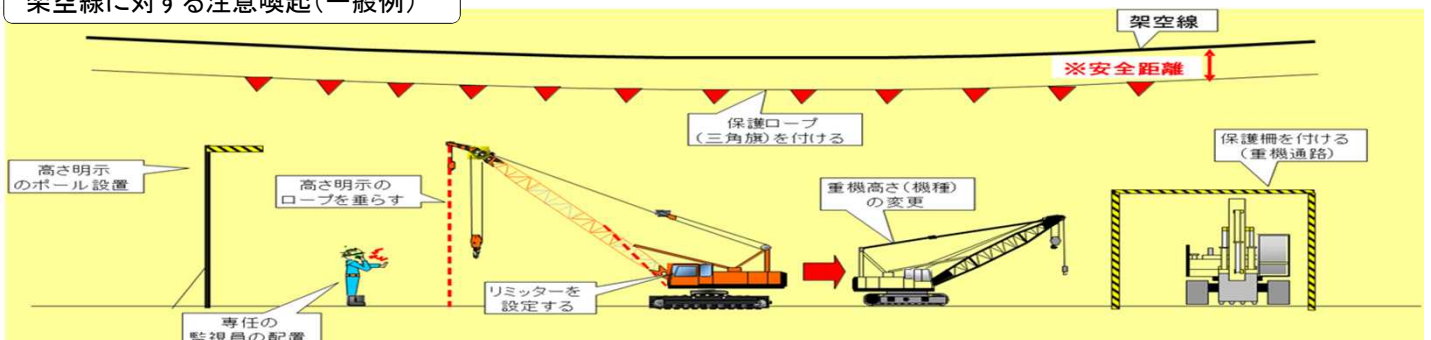
(拡大図)



架空線への接触をふせぐためにバックホウのアームに上限を設け挙げすぎないようにしています。

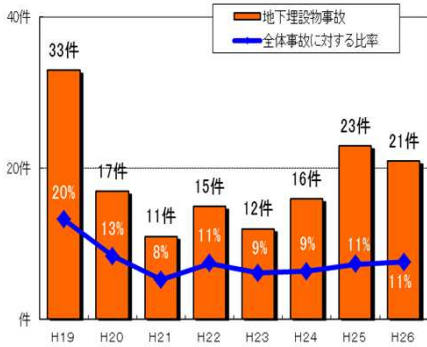
また、架空線を意識してバックホウの上限位置にステッカーを張っています。

架空線に対する注意喚起(一般例)

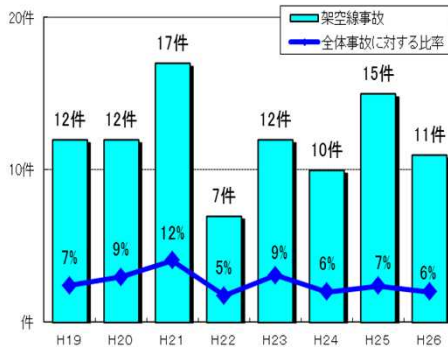


平成26年度重点対策項目の事故発生状況（速報値）

地下埋設物事故発生状況

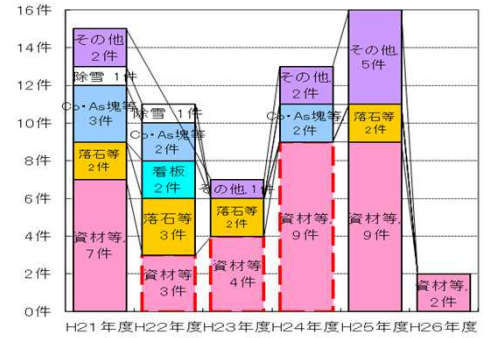


架空線事故発生状況

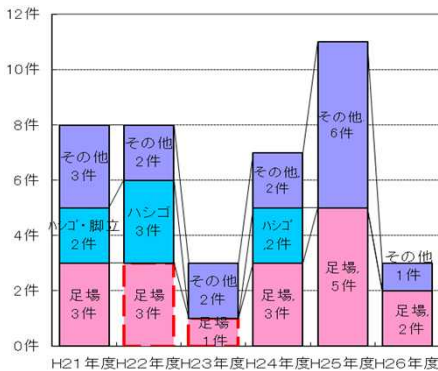


飛来・落下事故発生内訳

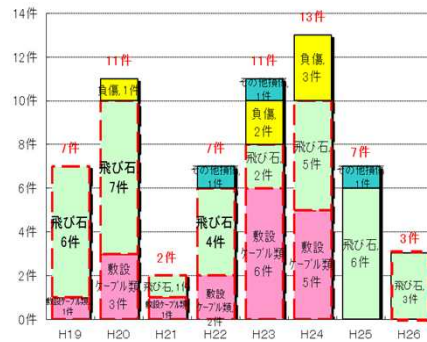
※工事関係者事故・物損事故を含む



墜落事故内訳



草刈り作業における事故発生状況



建設機械の転倒・接触事故内訳



※速報値なので3月発生 of 事故の措置をもって件数は変わることがあります。

平成26年度近畿における工事等事故防止重点項目の事故の発生状況

- 公衆災害事故にかかる重点対策項目の事故発生比率は19%で昨年より減っているが、昨年同様、高い割合となっている。
- 公衆災害事故関連では、**地下埋設物事故は21件、架空線事故が11件、飛び石事故が3件**発生している。
- 工事関係者事故の内訳では、**資材等の飛来・落下事故が2件、墜落事故が3件、重機の接触事故が2件**発生している。

グラフでみる限りでは、昨年度よりは減っていますが、架空線、地下埋設は相変わらず多い状況です。“あんぜん”にも対策を載せています。もう一度確認し、架空線や地下埋設の事故を少しでも減らすようにしてください。

また、飛来落下、飛び石、建設機械の転倒・接触、墜落事故も起こっています。これらの事故は死亡事故にもつながりかねません。今、一度、安全意識を高めて、現場全体で事故防止に努めて下さい。

事故の多くは、ちょっとした油断や手順の省略によって起きるものです。作業効率も大事ですが「安心して働ける現場環境の整備」に努めていただければ幸いです。



事故を起こさないよう、ご安全に！

